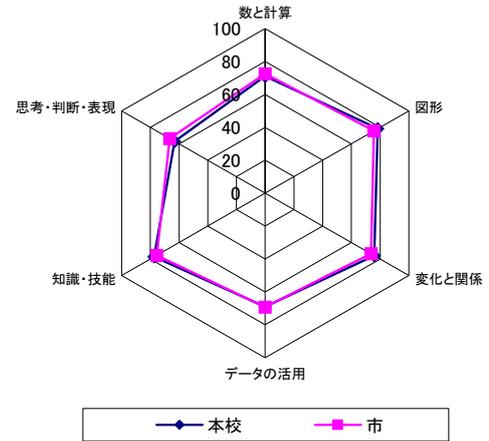


# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	71.1	72.6	73.1
	図形	78.3	75.7	74.7
	変化と関係	75.9	73.6	66.1
	データの活用	69.0	69.2	70.7
観点別	知識・技能	77.4	75.5	74.4
	思考・判断・表現	63.0	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は71.1%で、市平均と同程度である。</p> <p>○小数や分数を計算する問題では市の平均を上回った。</p> <p>●図を見て、小数倍(比較量を求める)を解く問題では、市の平均を12ポイント以上、下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・計算の仕方を理解し、公式を使って計算する力は身につけており、プリント学習やAIドリルを繰り返し行ってきたことによる成果が表れている。</p> <p>・公式に当てはめるだけでなく、問題場面を図で表すなどの活動を意図的に取り入れ、式が表す場面を思い浮かべながら立式する力を育てていく。</p>
図形	<p>平均正答率は78.3%で、市平均よりも2.6ポイント高い。</p> <p>○線対称な図形に対応する点を見つける問題では市の平均を6.7ポイント上回った。</p> <p>○点対称な図形に対する問題では市の平均を7.5ポイント上回った。</p> <p>●直方体を組み合わせた形の体積を求める問題では市の平均を4.2ポイント下回った。</p>	<p>・対称な図形の学習では、操作的な活動に併せてICTを活用し、図形を折ったり、回転するとどうなるかを感覚的・視覚的に捉えさせることを丁寧にいったことにより理解が深まったと考えられる。</p> <p>・直方体を組み合わせた形の体積の求め方については、図形を組み合わせたり、分割したりして基本図形の体積の求め方を見出し、図と式を対応させながら求める手順を確認していくことで、定着を図っていく。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は75.9%で、市平均よりも2.7ポイント高い。</p> <p>○表から面積と人数の割合を求める問題では市の平均を9ポイント上回った。</p> <p>●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速に直す問題では市の平均を5ポイント下回った。</p>	<p>・異なった2つ割合で捉えられる数量を比較する問題では、式の意味を問題場面や図と関連付けて考えさせたり、求めた商の意味を考えてから数値を比較させたりすることを通して、単量あたりの大きさの意味や表し方についての理解を深めていく。</p> <p>・時速、分速、秒速の単位の関係を理解し、異なる時間の単位で表されている場合には、単位をそろえて立式できるように繰り返し指導し、定着を図る。</p>
データの活用	<p>平均正答率は69%で、市平均と同程度である。</p> <p>○円グラフから割合を読み取り、基準量から比較量を求める問題では市の平均を4.8ポイント上回った。</p> <p>●代表値を用いて、えみさんの記録がクラスの半分より高い記録なのかどうかを説明する問題では市の平均を5.7ポイント下回った。</p>	<p>・基準量と比較量の関係を捉え、2つの数量を割合を使って表すことができおり、プリントやドリルなどの練習問題を繰り返し行った成果が表れている。</p> <p>・データの見方に関する用語とその意味、その数値の出し方をセットで覚えることが必要である。さらに目的を明確にし、自分の考えを根拠を明らかにして文章で表現する活動や、相手が納得できるように筋道を立てて説明する場を、授業の中で多く取り入れていく。</p>